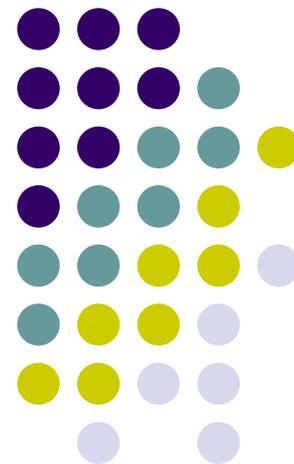


魔法のふでばこプロジェクト 実践事例報告



東京都立江戸川特別支援学校



東京都のiPad導入について

- 2011年12月に公費で購入できるようになった。
- 母艦は教育用のネットワークのパソコンを使用。
- iPadは3G、wifiともに無線での使用はできない。
- iTunesの利用については、iTunesカードを利用、予算上は郵券扱い。
- 2011年1月現在、この枠組みで購入した学校は無い。今後増えてくる見込み。

教科指導における活用事例



- 地図学習を行う上で、自分の地図上の位置を確認するために使用した。
- GPSを利用した現在地表示をさせながら、学校の周りの調査に出かけ、現在地表示が地図上で動くことを体験させ、地図上の自分たちの位置がわかるようにした。



授業におけるiPadの活用

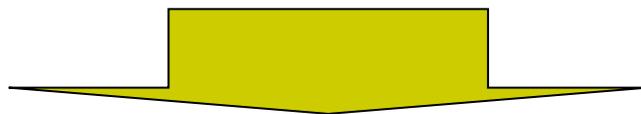
単元名	学習上の困難さとiPadによる支援
学校の周りの地図をつくろう (地図の作成)	<ul style="list-style-type: none">・みること → e-projector など・書字・地図上の位置の確認 →mapなど・写真をはる・見通しをもつこと・空間把握をすること →mapなど・グループで活動すること

授業内における児童・生徒への支援の
ひとつのツールとしての活用



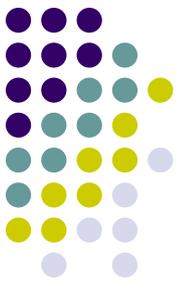
教科学習での活用のポイント

- ①児童・生徒の机の上においても場所をとらない。
- ②すぐに起動ができ、情報へのアクセスができる。
- ③学習内容に応じて、iPadの使用法の工夫ができる。(他のICT機器との組み合わせ等)



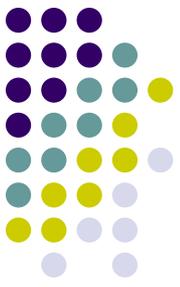
iPadの利点を活かすことで、
授業の中でさまざまな工夫ができる。

iPadを活用した 重度の児童・生徒の指導について



- 因果関係がわかりやすい。
 - 触ることに筋力が必要ではない。
 - 手のつめ以外のどこの部分が触っても反応する。
 - 同時に複数箇所さわっても、反応する。
-
- 児童・生徒が自分の行為によって画面が変わったり、音がしたという因果関係を理解しやすく、さわってみたいという気持ちを引き出しやすい。

重度の児童・生徒の 授業への導入のポイント



- iPadは、何もつながない状態が一番わかりやすい。
- 児童・生徒の姿勢、視野、手の位置のバランスが一番重要。
- 最初は、子供の触りやすい状態で体験を積み重ねる。

教育用のアプリ 障害の重い児童・生徒向け



- 操作がシンプルであること
- 画面の変化と音が両方あること
- この二つを満たすアプリ
- 例えば



pocketpond



i Love fireworks

- 二つのアプリからわかる、児童・生徒にわかりやすいアプリの条件とは？

生徒が授業で 使用するためのアプリ



- Wikipanion
- Puffin



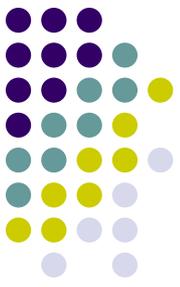
- 簡単な
音楽アプリ



Wiki検索専用のアプリ
safariを制限して、こ
ちらだけ利用するよう
にするのも一つの方法
である。

Web上のflashコンテン
ツも見ることができるブ
ラウザ。すべてのサイ
トに対応はしていない
が、都の下水道局のバ
ーチャル下水道などは
見ることができる。

白いアプリは、ボタ
ンを押して楽しむ音
楽アプリ。下のアプ
リはガレージバンド
を簡単にしたような
音楽を楽しむアプリ。



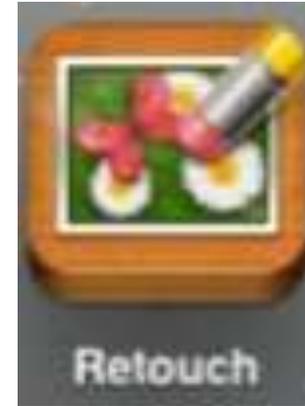
教員が業務で使用できるアプリ

最初にジョブズと一緒にAppleを創業したウォズニアックは、iPhoneについて、次のように述べています。

「私がiPhone4Sをすすめるのは、既に『Mac』の世界に足を踏み入れている人々と、コンピュータ全般に恐怖心を抱き、使いたくない人々に対してだ。iPhoneは威圧感が最も少ない。複雑さに恐怖心を抱くような人には簡単に使えて、ユーザーが使える機能を実行してくれるiPhoneが最適だ。」(朝日インタラクティブ <http://japan.cnet.com/news/service/35013159/>)

これは、iPadでも同じことが言えると思います。例えば難しいことを単純に行えるアプリで今までできなかったことをができるようになるのは、児童・生徒に限らず教員にもありがたいことではないでしょうか？

- Retouch



画像上の消したいものを消せるアプリ。

時々、不思議な答えを出すこともあるが、繰り返すことで、理想に近い結果を得る事ができる。